

第3回国連防災世界会議報告

2015年3月14日から18日にかけて仙台において第3回国連防災世界会議が開催されました。



第3回国連防災世界会議の開会式(写真:内閣広報室)

この国連主催の会議では、国際的な防災戦略が議論されました。日本は防災に関する自身の豊富な知見・経験を活かし、積極的に国際防災協力を推進している立場から、第1回(1994年横浜)、第2回(2005年兵庫(神戸))に続き第3回会議もホスト国となりました。今回の会議には185の国連加盟国が参加し、元首7か国、副大統領級6か国、副首相7か国、閣僚級84か国を含め6,500人以上が、関連事業を含めると国内外から延べ15万人以上が参加し、日本で開催され



第3回国連防災世界会議の全体会場(写真:UNISDR)

た史上最大級の国際会議となりました。

また、会議に合わせて「女性のリーダーシップ発揮」、「リスクに対応した投資」、「包摂的な防災」をテーマに3つの首脳級会合(ハイレベル・マルチステークホルダー・パートナーシップ対話)が開催され、そのうち「女性のリーダーシップ発揮」セッションでは安倍総理大臣が基調講演を行い、東日本大震災の経験も踏まえ、防災における女性の役割の重要性について論じました。そのほか、5つの閣僚級ラウンドテーブルセッション、350以上のシンポジウム・セミナーも行われ、様々なレベルの多様な関係者が、幅広い視点から防災という問題に取り組む場となり、国際社会の防災に対する理解を深める重要な機会となりました。

今回の会議開催に当たって、日本としては3つの狙いがありました。第一に、様々な政策の計画・実施において防災の視点を導入していくこと(防災の主流化)、第二に、防災に関する日本の知見・技術を発信すること、そして、第三に、東日本大震災からの復興を発信し、被災地の復興に貢献することです。

「防災の主流化」については大きな成果がありました。会議の結果、第2回会議で策定された防災の国際的指針である「兵庫行動枠組」の後継枠組みとなる「仙台防災枠組2015-2030」が採択されましたが、同枠組みにおいては、防災投資

の重要性、多様なステークホルダー(関係者)の関与、女性と若者のリーダーシップ促進、「より良い復興(Build Back Better)」など、日本から提案した考え方が多く取り入れられ、2015年9月に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」においても防災の視点が盛り込まれました。また、日本の新たな協カイニシアティブとして、安倍総理大臣から、今後の日本の防災協力の基本方針となる「仙台防災協カイニシアティブ」を発表しました。同イニシアティブでは、災害は貧困撲滅と持続可能な開発の障害であり、人間の安全保障に対する脅威であると位置付け、あらゆる開発政策・計画に防災の観点

